

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和6年6月28日 ふれあいのやかた かしも

開会

会長あいさつ

今日は加子母の教育と、教育にも大きく影響する地域の力をテーマに対話ができたらと思う。よろしくお願いします。

市長あいさつ

対話集会では、より良くするためにはどうするべきかという話をしたい。日頃の教育への携わり方や、今まで取り組んできたことなどを聞かせていただきたい。よろしくお願いします。

加子母教育協議会や資料についての説明(略)

会長

今日のテーマは地域教育と地域の力。明治から続く加子母の人づくりのテーマは「人づくりは村づくり、村づくりは人づくり」。人づくりというのは地域を作ること。地域が元気でないと、人はできない。それを百何十年間テーマに掲げてやってきたのが加子母の教育。そのために、地域は元気でないといけない。子どもは大人を見て育つので加子母では大人が積極的に動いてきたが、最近地域力に陰りが見えてきたように感じる。我々は昔から行政と一体的に地域づくりをやってきたので、今後も行政を頼ってともにやっていきたい。

2つ目は、周辺地域の少子化対策。去年の加子母の出生数は3人で、大変ショッキングで、不安がわき上がってきた。全体的な人口のバランスは市にとって大事なことだと思うので、人口の配置がアンバランスにならないよう加子母みたいなところで子育て環境の強化を行なってはどうか。加えて、教育を受ける機会の改善。小さな学校は教育力が弱くなる。また、加子母から中津高校に通うのに1時間ちょっとかかり、朝6時台に出ていかなきゃいけないことがネックになり、加子母から引っ越すという事例も今まで結構ある。そうすると人が減り、行事も少なくなり、全体の力も弱くなる。

3つ目は、加子母は高齢化率が70%だが、個性を重視した教育や高齢者を戦力化するなど、少子化や高齢化をメリットと考えるような政策もあるのではないかと。予算の傾斜配分をしなくてはいけないかもしれないが、市全体の均衡を保つという意味でも特に力を入れて考えてもらいたい。我々も一緒になって協力できる体制を作っていきたいと思う。

参加者

今年から地域おこし協力隊の2人に入ってもらい授業をしている。この頃教育も変わっており、地域の人から学ぶシステムにしよう。子どもは間接的なものだけじゃ、生きていくための力になっていかない。直接、地域の人、本物に触れるのが大事。協力隊が加子母の元気を見つけようということで、いろいろ取材をして全戸配布している経験から、授業で起業体験するのはどうかと話をしていた。地域づくりをやっていると思うが、意識も変化しており、力とかで教えても駄目だなと。

毎月1回集まって話をすると、あまりしゃべらない人の方が大事なこと言うような気がする。そんな目

立たない人の考え方を拾い上げてもらうことは大事だと思う。新聞で二中の女の子の手紙の話を讀んだ。他にも同じような思いを持っている人がいると思う。たった1人だったけど、色んな風に広がっていく。それがすごく大事だと思う。

市長

第二中学校の生徒さんからお手紙をいただいた縁で学校にお邪魔し、まず校長先生に「生徒さんたちの授業の時間を潰してしまい申し訳ない。」と話したら、「授業の時間をなかなか削れない中で、掃除の時間を削って時間を作りました。」と。そう意味では、加子母は地域の皆さんと子どもたちの時間を作ってもらっている。それは子どもたちにとってもすごくいいこと。学校は、我々が子どもの頃と比べても、やることは変わっていないがしっかりやるようになった。私は宿題が出た記憶があんまりないが、今は宿題もしっかりしながら、授業もやって教科書を終わらせる。時間が作れない中で、地域の皆さんとの時間を作っている加子母の小中学校の先生方も非常に努力されていると思う。子どもたちのためになると思って取り組んでくれている。本当は市全体でもそういうことやっていけるといいと思うが、なかなかこれを他の学校に言っても、通用しないところもあるのは非常に残念だと思う。

参加者

加子母は先生というよりも、地域の人が授業をやるときは地域の人だけでやる。先生の力はあまり借りない。学校の先生も仕事を削れるところは削らないと。

参加者

学校の先生方もかなり負担があり、働き方改革も問題になっている。最近は地域の人的・物的資源を活用することになっているが、学校は子どもたちを地域に出していくことができない。そこで重要なのはコーディネーター。加子母の場合はコーディネーターがいるから出来る。もしかしたら市全体でも行いながら、それを共有して、馬籠にはこんな教材があるから加子母の中学生が馬籠に学びに行くという感じで交流ができていくといいと思う。最初は加子母を学ぶが、最終的には加子母で学ぶ。「を」っていうのは加子母を学ぶ。「で」というのは加子母を例にして社会でこれから自分が成長していくうえで大切なものを学ぶ。それを加子母、馬籠、川上などのいろんな地域で学ぶ。そんな機会を作って加子母の子どもたちも他の地域で学べる仕組みが中津川市の中でできるとすごく良い。学校の先生方も、本当に地域に任せることができてしまえば、負担は減ると思う。

市長

P T Aなどは別として、加子母のように地域の皆さんがやる教育の組織はそうそうない。組織がしっかりして、子どもたちや学校と連携が取れている。他の地域でもできるときっと楽しいだろう。近くの学校同士で交流をしているところはあるが、距離があるとなかなかそれもできない。

生徒会の子たちが中心になるが、中学生サミットが今年も夏にある。市議会の議場に一同に集まり、それぞれのチームで話し合う。今の子どもたちは1回集まれば連絡先を交換してすぐ友達になってしまう。そんな機会を作れば高まりがあると思う。

参加者

中津川市の域学連携の発表会。大学生がたくさん入ってきているので、そういうところもうまく子どもたちと交流させれば、学びが深まるのでは。

市長

高校生、大学生の子たちをコーディネーターにすれば、その子たちもきっと学びになる。小中学生の子たちも高校生とか大学生はこんな風なんだと学べると思う。

参加者

地域の活性化、教育という観点で、1つ思っていたのが、六斎市。僕も実行委員会などで関わらせてもらった。^{いち}市というのは地域の活性化のためにそれぞれの地域で集まってやっていくもの。そんな位置付けでいくと、やはり中山間地が大事だなと思う。その中で地域は、子どもに対する未来への投資がすごく重要なことだと思う。それから、教育のあり方。僕たちが今まで当たり前に行っていたことが違ってくる。小規模で人口も減っている。果たして今後どうやっていくか。最後にもう1つ。世界のトップ企業の工場が、中津川市にある。それをいろんな子どもたちに市長さんの方から伝えてほしい。若干今の中津川市ってそういうことに対しての取り組みが弱いかなと思う。子どもたちに夢を与えて、みんなで「いいね！この地域」となるような、夢のある言葉を市長さんに伝えてもらえると嬉しい。

市長

私じゃなくても、皆さんから伝えていただければいいと思う。この間、二中にお邪魔したときにも、全校の皆さんの前でいくつか話をする中で、子どもたちに夢を持ってもらいたくてリニアの話をした。皆さんが住んでいる中津川市はこれからもっと発展して行くんだよと。中津川にできる岐阜県駅は、中間駅の中の中間駅で、東京にも1時間、大阪にも1時間以内で行ける場所。今までは東京まで3~4時間。大阪も3時間以上かけて行くところが、短い時間で行けるようになってくる。子どもたちが大きくなった頃には、そんなまちになると語った。ずっとここ地元に住んでねと言いたかった。これはぜひ市民の皆さんからも子どもたちに伝えていただきたい。

参加者

我々も、子どもたちに将来は加子母に帰ってきてほしいと伝えたい。しかし、加子母に帰ってこいよと言っても仕事がないと困るなとか、そういう心配は先に立つ。今はあまり大きな声で言えない。でも自信がなくて困るので、我々で地域を活性化して地域の良さを体得してもらい、将来帰ってきたいと思えるようにしたい。周辺地域が将来にわたって、中津川市のバランスの中でしっかり生き残っていけるようにしていきたい。それが教育にも大きな影響を与えると思う。そうすればもう、帰ってこいよ！と大きい声で言えると思う。

市長

リニアの話だが、本当に市内の皆さんだけでなく、近隣の市町の皆さんがすごく中津川を注目していて、一緒になって何かやろうとおっしゃっていただける。これは本当にすごくありがたいこと。県境、市境よ

りも、周りの市町の皆さんと一緒にあって、どう盛り上げていくかというようなことを考えなくてはいけません。リニアに乗る方に、岐阜県駅に降りてもらうにはどうしていくか。どんな特色を出していくか。都会的なものを作っても、全然魅力がない。田舎は田舎らしく、自然を存分に楽しんでもらうっていうような場所を作る。森のまちづくりをキーワードで言っているが、山や川に囲まれたこの自然を生かしながら、市民の皆さんや来ていただく皆さんに、ここで楽しんでもらう。癒されてもらって、また仕事をしてもらう。リニアの開業がちょっと遅れるが、その頃には今よりもっと働き方も変わっていると思う。パソコン1台で、どこでも働けるような職種の人が今よりもっと増えてくる。いわゆる2拠点生活。たまに本社出勤、それ以外は田舎のいい環境のもとで仕事をしながら子育てをする。そういう環境づくりをしていくには、自然というのは絶対生かさないとまったくない。地域やまちを活性化させていくようなところにもつながってくる。加子母、馬籠、阿木、中津川市の中でそれぞれのまちづくりをしながら、それを全部合わせて中津川市ってどんなまちになっていくという、そんな中津川の全体像を描かなきゃいけないし、その上で中津川ってこんなまちだというのができて、ぜひ中津川に来ませんかと言える。それぞれ地域の皆さんの地域力をぜひ発揮してもらいながらその地域のまちづくりを、一緒になってやっていくことが大事だと思うし、そういうことをやっていきたい。

参加者

空き家対策委員会に参加しているが、加子母は若い人が来ない。移住したくて訪ねて来る人は大体50代以上の独身の人。若い人はあんまりお金持っていないので、来やすくするためには、賃貸住宅をもう少し利用できるようにならないと来れない。仕事も子育て環境も住むところも。今、市営住宅では収入制限や、5年たったら出ていかなきゃいけないなど条件があり使い勝手がすごく悪い。まずは使い勝手をよくして、若い世代が来れるようにしていただかないと増えないと思う。

参加者

住まいさえあれば、物は買えるので田舎でも住める。とにかく住まいがない。今、空き家も全部はけちゃって、どうにもならないようなのばかり。

市長

私のイメージと違ったのは、移住定住するのは60代とかのリタイアされた方が多いと思ったが、40代よりも下の方が7割いる。就農で付知や、阿木に移住して来られている方もいらっしゃる。そうやって移住されて、良いことも苦労したこともある方が、橋渡しというか、大変なこともあるけどいいこともあるっていうところを伝えてくれれば。そして、その大変なところを市やまちでどうやってカバーしてあげられるかが大事だと思うので、これからも継続してやっていく。

参加者

加子母でもトマト移住がある。空き家のあっせんを積極的にしているが、その中でいろいろ苦労している。地域にとって空き家は大事な財産。財産として生かすようにするための方法はある。それについても総合事務所と相談して、やっていけるといいなと思う。今の空き家バンクの方式は加子母には馴染まない。一人一人の移住希望者が加子母で生活できるのか、その人となりを見ている。これは仕事を紹介した

り、子供の面倒を見たりなど、よりきめ細かなところを目指しているから。そうやって加子母に仲間として入ってくれる人たちをこれからも探していきたい。そのための、良い政策も期待したい。

会長

これから先は、教育と人口のアンバランスと空き家が大問題になると思う。

司会

違った視点としてお母さんの立場から見た話をぜひ。

参加者

私はまだ子育て中だが、子どもは小学校の頃からやっていることを続けたいということで、加子母に残らず高校は外に進学した。結局、大学は岐阜の方に戻って来た。他の子たちはそれぞれ独立し、岐阜市内や大阪に行った子もいる。私たちは都会より、こういうところでおおらかに子育てをして、地域の中でみんなに育ててもらう様な環境が良いと思って移住してきた家族なので、こういう場所は無くさないでほしい。これからどうなっていくのだろうという不安が大きい。教育のことも、合併するとか一貫校になるとかいろいろな方法はあるが、今子育てしている親さんたちがどう考えてどういう選択をしていきたいかを、市の方にもしっかり聞いていただけたら。

参加者

うちの子たちはこの加子母の地で、本当に地域の宝のように見守られながら育ってきた。加子母の皆さんは積極的に、子どもたちに関わってくださるので、本当に子育てしやすかったし、ありがたいと思っている。今、子供の数も減ってきているし、一緒に子育てしてきた方でも、何組か家族ごと引っ越して行かれた方もいる。なぜ素敵な自然の中で育てられる加子母から出て行くかというと、色々理由がある中の一つとして高校に少し通いにくいこと。距離の問題もあるが、バスの本数が減っている。昨年も1便加子母まで来ていたバスが付知までになった。その前の年は、坂下方面も1便加子母まで来なくなった。一昨年補助金を上げていただけたのは、本当にみんな助かっている。だが、バスに乗る生徒数が減ってくると便が減るということになると、ここで安心して子育てしていけるのか。バスの本数が減ってくることによって子育てに不安を感じる人とかが出てくると難しいと思う。

参加者

私はPTA役員で、たまたまこういう機会に出席させてもらったが、それまでは単なる会員で、自分の子育てにはもちろん関心を持ち取り組んでいたが、加子母全体の教育のことまで自分で考えていなかった。自分の家の上の子は中学を卒業して、加子母から離れた。下の方ももう外に出てしまう。多分、学校を出て就職して、おそらく帰ってはこないだろう。加子母で育った子が、全員戻ってくるわけではないと思うが、外にいたとしても加子母のことを思ってくれるような大人になって欲しいし、そういう子を育てていけないといけない。移住してくる人が若い人もいるというお話で、まさに子育てをする人たちが、加子母に来たいと思うには働く場所や、住む場所もちろん大事だと思う。それと教育。これだけ地域の人がすごく教育に関わっているところってなかなかないので、その教育の特色をもっと発信して、加子

母で子育てしたいと思える人が移住してきてくれるように。それは小さな団体でやっているだけだと限界もあると思うので、市と連携してやっていければ良い思う。

参加者

市営住宅のUIターン住宅は、5年以内に出ていかなくてはならないという条件付き。5年ってあっという間で、すぐ家を建てないといけない。加子母は農地ばかりでなかなか宅地がない。もし他の地域にUターンの家があったらそっちへ行こうかな、なんて考える。できれば加子母に住みたいと思っても、そういう条件でよその地へ離れていってしまう可能性もある。そういう住宅に、5年以内という条件をなくしたり、なるべく低価格で借りられるような対策を考えていただけたらありがたい。

参加者

話は変わるが、加子母には60年程歴史があった加子母体育祭というのがあった。コロナ禍の行動制限の中で開催できなくなった。加子母村民運動会を合併後に引き継いで、ずっとやってきていた。人がいなくなったために加子母体育祭が打ち切りになってしまったのがすごく残念でもったいない。一緒にこれから何かできないかというような相談を何度かしたが、なかなか打開策はない。別に変わったことはやらなくても、世代間交流で子供たちと関われるいい機会を作れると良いと思う。

市長

各地でさまざまな団体さんに対話集会をしているが、どこも共通しているのは参加していただいた皆さんの意識が高いこと。地域を何とかしたい、自分たちの業界を何とかしたい。そういう熱い思いの皆さんの集まりで意識の高い方にこういう場を作っていただいて本当にありがたいと思う。冒頭に話していた少子化の問題は当然加子母だけのことではない。市全体で見ても、今年1月に成人を迎えた子は約830人。昨年中津川で生まれた子どもは、ざっと350人でほぼ半数。そういう意味では加子母や中津川市だけでなく、全国的にやはり少子化というのは本当に加速度的に進んでいる。全国どこの地方も市町での少子化は本当に大きな課題。これをやればいいという特効薬がないため、引き続き皆さんと対策していかなければいけない。人が少なくなっていくので、コミュニティーを存続していけるのか、遅かれ早かれ考えていかなきゃいけない。市も今の子どもたちが大人になって地元で生活していくときのことを考え、これから30、40年先には東濃までをひとくくりにするなど、ある程度我々大人が考えていかなきゃいけない。ありがたいことに、中津川市は他の市町にはないリニアの開業がある。これは絶対的にプラスに捉えて、それをまちづくりに生かさなくてはいけない。全国で少子化が進んでいく中、全国的にも限られたチャンスを持っているので、どうやってこのまちづくりに入れ込んでいくかということはとても大事だと思うし、それも含めて、中津川をどんなまちにして行くかということ。そのために、じゃあ加子母はどうするか、各地域のまちづくりはどうするんだということを地域の皆さんが、主体的に生活しやすい、ここに暮らしてよかったというようなところと一緒に作っていかないといけない。私もまだ就任5カ月ですが、加子母のことも色々教えてほしいので、どんどん話しながら一緒に作っていきたい。ぜひ盛り上げていければと思います。

ありがとうございました。

副会長

色々と生活に密着した問題がたくさんある。どうしたらいいかというのは難しい話。それは加子母だけでなく、みんな同じこと。色んな問題があるが、今日こんな細かいことを聞きに来ていただいて本当にありがたく思いました。今後ともよろしくお願いします。本日はありがとうございました。